

「善通寺^{ふりよ}俘虜収容所」ハンドブック

太平洋戦争初の捕虜収容所と人々の記録



【写真出典：アジア歴史資料センター.Ref.A06031081300】

名倉有一編

2.9.3 英海軍艦長

○「本月中ニ收容セシ俘虜左記ノ如シ

(九月九日横須賀海軍警備隊ヨリ受領)

英国海軍大佐 一
同 海軍少佐 一
同 海軍大尉 三
豪州海軍少佐 一
同 海軍大尉 三
同 海軍中尉 一
米国海軍大尉 二
同 海軍一等兵曹 一
同 市民 一
計 十四名 (吉D-10)」

○本件の新聞発表⁴¹⁸ : 図 159.

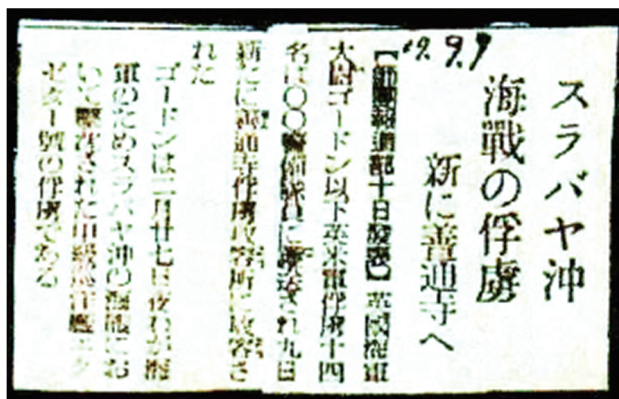


図 159 スラバヤ沖海戦の捕虜收容
出典：吉K-39 (新聞名・日付不明) / 善 1-39.



図 158 ゴードン
O. L. GORDON
Capt. - RN - - Englad
出典：We Stole to Live.
p.185.

⁴¹⁸ ○記事欄外の「17.9.9」は記事の日付ではなく收容日 (吉D-10) .

○「師団報道部十日発表」とあるので、新聞掲載はおそらく9月11日.

○ゴードン大佐の階級が「大佐」ではなく「大尉」と書かれた理由の推測.

① 善通寺俘虜収容所規定第12条：「新聞記事資料ノ提供ハ通常毎日1時ヨリ約一時間トス所員ハ必要アル毎ニ口頭或ハ印刷シタルモノヲ一齊ニ発表ス (吉I-138)」

② 発表の際、師団報道部が英海軍で大佐を意味する Captain を大尉と誤訳したのか.

○「師団報道部発表を間違つて掲載したら新聞は発禁になるので、新聞記者の聞き違いとか誤りではないと思われる」. [通信社OBの意見. Eメール. 2020-08-15]

あとがき

本書は、太平洋戦争中日本が初めて開設した「善通寺俘虜収容所」と、戦後収容所に
関連して生じた出来事を、善通寺市立図書館が所蔵する資料を基にまとめた。作成に当
たりご協力いただいた次の方々に厚くお礼を申しあげたい。(敬称略)

明石和章、長部邦宏、加藤聖文、川崎智子、工藤洋三、國重博子、杉山利幸、
高田信二、多田善昭、立川京一、田中利幸、橋本正好、細谷恵子、三谷充弘、宮本義行、
矢原裕子、吉田文夫、Caroline Burkhart、Lindsey Jones、Marian May、
Peter McQuarrie

またご担当名は原則として割愛したが、善通寺市立図書館、浜松市立中央図書館、
POW 研究会はじめ次の組織・団体などからも様々なご支援をいただいた

【北海道】芦別市立図書館、星の降る里百年記念館(芦別市の郷土資料館)、【宮城県】
宮城県立図書館、【秋田県】秋田県立図書館、【福島県】福島県立図書館、【東京都】
株式会社朝日新聞社ライツ事業部、公益社団法人自動車技術会、精糖工業会、
株式会社草思社、独立行政法人農畜産業振興機構、公益社団法人著作権情報センター、
日本赤十字社広報室、不二出版株式会社、防衛研究所戦史研究センター史料閲覧室、
株式会社毎日新聞社知的財産ビジネス本部、靖国偕行文庫、【神奈川県】学校法人桐蔭
学院、【静岡県】静岡県立図書館、特種東海製紙株式会社、【大阪府】大阪市立中央図書
館、【兵庫県】兵庫県立図書館、【和歌山県】和歌山県立図書館、【広島県】広島県医師
会、広島県立図書館、【徳島県】徳島県立図書館、【香川県】香川県(環境森林部みどり
保全課、広聴広報課、農政水産部農業生産流通課)、香川県高等学校教職員組合、香川
県立図書館、香川大学、カトリック高松司教区本部事務局、株式会社四国新聞社メディ
ア室情報管理部、善通寺市教育委員会生涯学習課、【愛媛県】愛媛県立図書館、【福岡県】
福岡県立図書館

以上述べた以外にも、多くの方々から予想を超えるありがたいご協力ご支援をいただ
いた。すべての皆様に対し、重ねて心からお礼を申し上げたい。

以上

目次

凡例	—	003
目次	—	004
図1 善通寺収容所があった場所	—	009
" 2 " の周辺図	—	010
" 3 " のイラスト	—	011
" 4 " 将校用捕虜棟	—	012
" 5 " 下士官兵用捕虜棟		
第1部 本文(日付順)	—	013
概要	—	015
1. 1941(昭和16)年	—	017
1.1 十二月		017
捕虜収容所設置／臨時編成要領／クリスマス／俘虜情報局／倉庫／経理部長		
2. 1942(昭和17)年	—	029
2.1 一月		029
給与方針／創立委員／被服の準備／設置命令／開設／工事／例外的／捕虜収容(※)／一夜明けて／入浴／買出し／不寝番／成規類聚 ^{せいきるいじゅう} ／編成完結／日課／体操／日本ニュースの撮影／郵便局／洗濯／見物人／子供たちの見た捕虜／捕虜の生活／抑留者神戸へ／税関検査／録音／ウェーク島からの捕虜／座談会／日本赤十字社／会議		
2.2 二月		080
健康管理／寄贈／引率外出／外貨の両替／オーストラリア飛行艇搭乗員／スイス公使館員／俘虜情報局長官／祝賀会／マレー半島からの捕虜／郵便貯金 ^{おおきやま} ／大麻山／給与支給／多国籍		
2.3 三月		107
看護婦／所内作業／看護婦ら神戸へ／赤十字国際委員会／優遇／俘虜管理部		
2.4 四月		116
歯科機械 ^{しゅほ} ／酒保／海軍「大船収容所」／講習会／米爆撃機搭乗員／ドーリットル空襲／スイス公使館員再訪／「写真週報」		
2.5 五月		133
白人捕虜の処理方針／米国大使館に護送／スウェーデン公使館員／大学人の調査／東条首相		
2.6 六月		142

大阪派遣／日米交換船／外務省

2.7 七月 149

捕虜監禁／オーストラリア人捕虜／書類上の捕虜

2.8 八月 158

所長交代／カトリック／国内収容所増設／高松駅／台湾移管／手紙

2.9 九月 164

川崎市へ分遣／民間人との接触／英海軍艦長

2.10 十月 168

救恤品きゅうじゆつひん

2.11 十一月 170

謀略用写真／開墾地／九州派遣

2.12 十二月 173

坂出駅さかいで／月報／演芸会／収容者数

3. 1943 (昭和 18) 年—179

3.1 一月 179

到着と出発

3.2 二月 181

最初の死亡者／米国赤十字社

3.3 三月 183

捕虜放送

3.4 六月 184

三代目所長／園芸

3.5 七月 186

分所

3.6 九月 188

地震／女性職員

3.7 十月 191

飲酒禁止／東京へ護送／東京俘虜収容所

3.8 十二月 196

文化学院／拒否事件／外務省書記官／分所から善通寺へ

4. 1944 (昭和 19) 年—203

4.1 三月 203

作業命令

4.2 四月 204

国際赤十字代表

4.3 五月 206

- 山根分宿所
- 4.4 七月 207
東条内閣総辞職／グアム島陥落
- 4.5 十一月 209
四代目所長
- 4.6 十二月 210
パーティー／友人の死
- 5. 1945（昭和20）年—213**
- 5.1 一月 213
空襲
- 5.2 二月 215
松根油しょうこんゆ
- 5.3 四月 216
四国防衛軍／広島収容所に移管
- 5.4 六月 218
捕虜将校の移動／B29 の墜落
- 5.5 七月 223
高松空襲／兵站担当参謀へいたん
- 5.6 八月 226
原子爆弾／坂出港さかいで／終戦／収容所占拠／物資投下／交流
- 5.7 九月 234
引渡し／物資投下／帰国／戦犯追及（東京）
- 5.8 十月 242
戦犯追及（善通寺）
- 5.9 十一月 243
残務処理
- 5.10 十二月 244
BC 級戦犯裁判／善通寺収容所の被告／分所長有罪
- 6. 善通寺収容所の縁—249**
- 6.1 元捕虜の交流 249
英国／米国／ジョーンズと友人たち
- 6.2 和解 253
英国人ゴードン／池田徳真のりざね／米国人ホール／英国人クック／田中英吉司教／
米国人ロジャース／米海軍の元将校／米国人ゴールドブリス／オーストラリア
人メイ／米国人クリーバー／米国人ロスランスキー
- 6.3 捕虜体験を語る 270

英国人ウィリアムズ／米国人ヘンショー／ニュージーランド人ジョーンズ
 6.4 子女の来訪 273
 オーストラリア人メイ／米国人バークハート／英国人タイナー

※「2.1.8 捕虜収容」内訳

No.	表 題	ページ
1	到着準備	40
2	高松港	41
3	護送の海軍少尉	42
4	善通寺到着	43
5	多度津港	45
6	上陸	46
7	参謀長とグアム総督	48
8	出発	50
9	到着	51
10	部屋割り	52
11	大見屋旅館	53

第2部 補足資料

No.	表 題	ページ
1	主計	279
2	善通寺師団	280
3	収容所関係者	284
4	初の収容者内訳	285
5	食事	286
6	日本円	291
7	風呂	293
8	諸規定	294
9	通信	298
10	麻酔なしの手術	299
11	捕虜の外出	302
12	優遇	304
13	俘虜管理部の設置	305
14	所長の要望	306
15	米海軍看護婦の回想	307

16	尋問	309
17	捕虜教育	310
18	捕虜からの技術導入（第一次世界大戦）	311
19	首相来訪	312
20	「戦陣訓」	319
21	宣誓：海外収容所の例	322
22	報告書	324
23	収容者数の増減	326
24	死亡者	329
25	分所・派遣所	335
26	捕虜将校の移動	336
27	<small>さかいで</small> 坂出駅の捕虜	339
28	捕虜虐待	341
29	予備役	346
30	捕虜収容所の比較：日本とドイツ	347

収容所の基本データ—349

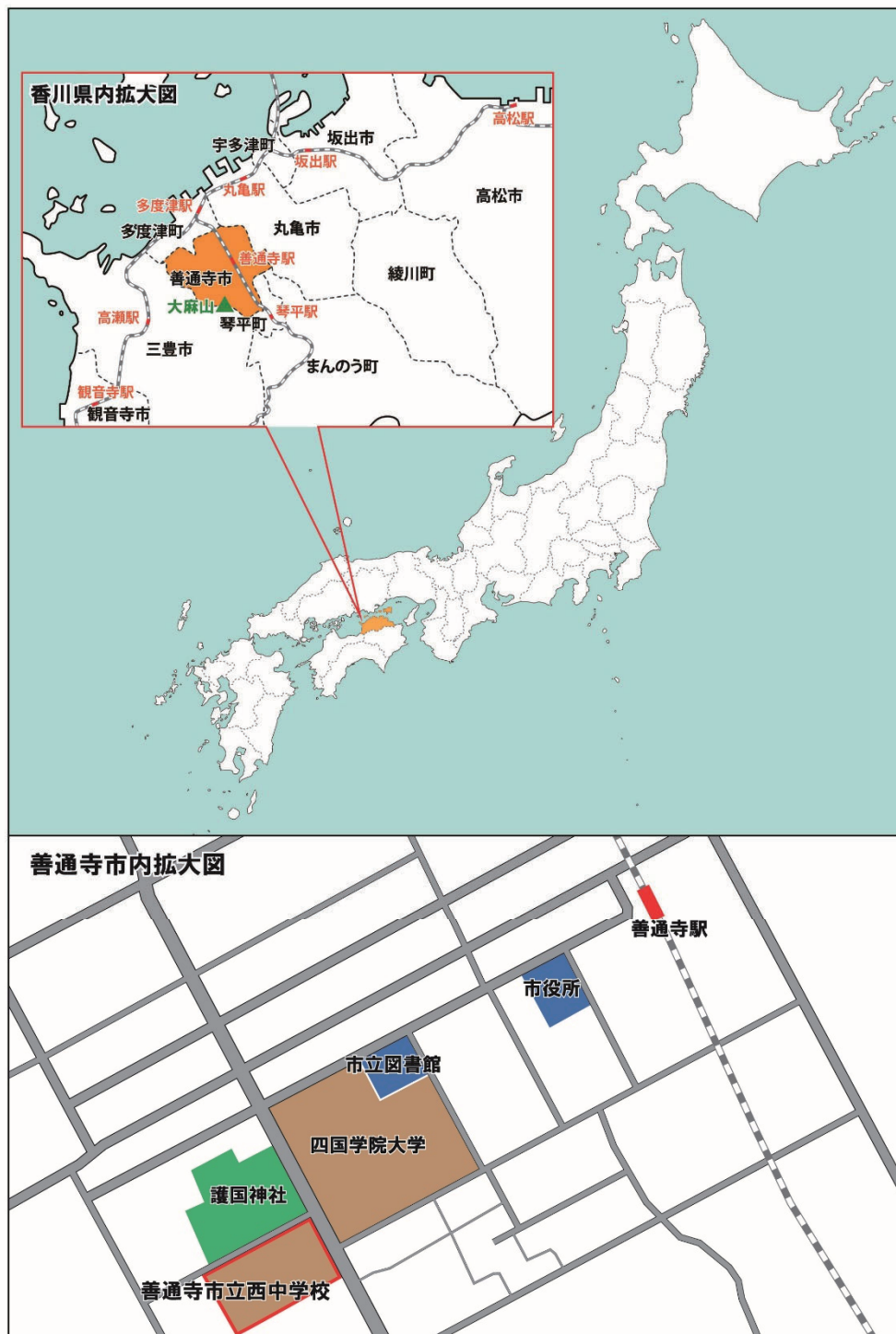
主な参考資料—351

収録図一覧—355

あとがき—364

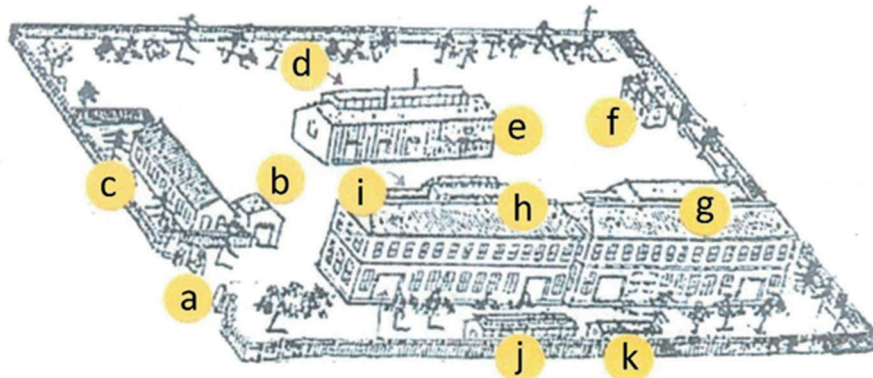
索引—365

Table of Contents—381



©2020 しゅうきち D

図 1 普通寺収容所があった場所
 (現在普通寺市立西中学校がある, 左下の赤枠の部分)



護 国 神 社

a	正門
b	衛兵所・面会所
c	軍直轄製パン工場
d	炊事場
e	浴場
f	飼育場
g	1号棟 (1階は本部事務所)
h	2号棟
i	洗面所・便所・物干所
j	縫製作業場
k	営倉

図 3 善通寺収容所のイラスト

出典：茶園義男編. 大東亜戦争俘虜関係外交文書集成 第1巻.
不二出版, 1993, p. 339 / 善 9-84.



図 4 将校用捕虜棟 (1号棟)

出典：善通寺市立図書館蔵. Caroline Burkhart 編.
Zentsuji POW Camp, Shikoku.



図 5 下士官兵用捕虜棟 (2号棟)

出典：善通寺市立図書館蔵. Caroline Burkhart 編.
Zentsuji POW Camp, Shikoku.

名倉有一 1950 年生まれ.

『日の丸アワー：対米謀略放送物語』（中公新書）に興味をもち、
余暇に当時の関係者を探し、話を聞く。定年後自作した報告書を
善通寺市立図書館、スタンフォード大学・フーヴァー研究所などに
寄贈。NPO 法人インテリジェンス研究所特別研究員。

ぜんつうじふりよしゆうようじよ
「善通寺俘虜収容所」ハンドブック

たいへいようせんそうはつ ほりよしゆうようじよ ひとびと きろく
太平洋戦争初の捕虜収容所と人々の記録

なぐらゆういち
編集：名倉有一

発行：2021 年 8 月 於浜松市

私家版

連絡先：nagura95@gmail.com